

解答速報

解答速報はYMSWEBにも掲載しています!

<http://www.yms.ne.jp/>

問題 [I]
 実数 t は $0 \leq t \leq 2\pi$ を動くとし、点 $P(2\cos t, 4\sin t)$, 点 $Q(-2\sin t, 4\cos t)$, 点 $A\left(\frac{1-\sqrt{3}}{2}, 1+\sqrt{3}\right)$ を考える。このとき、次の間に答えなさい。

(1) 原点を O とおくと、 $OP^2 + OQ^2 = \frac{\text{アイ}}{\text{イウ}}$ である。

(2) 点 P, A, Q が一直線上に並ぶのは $t = \frac{\text{ウ}}{\text{エ}}\pi$ のときである。

(3) 三角形 PAQ の面積は $S(t) = \frac{\text{オ}}{\text{カ}} - \frac{\text{カ}}{\text{ク}} \sin\left(t + \frac{\text{キ}}{\text{ク}}\pi\right)$ である。

また、 $S(t)$ は $t = \frac{\text{ケ}}{\text{コ}}\pi$ のとき最大値 $\frac{\text{サ}}{\text{シ}}$ をとる。

解説

(1) $OP^2 + OQ^2 = 4\cos^2 t + 16\sin^2 t + 4\sin^2 t + 16\cos^2 t = 20 \dots \text{アイ}$

(2) 3点 P, A, Q が一直線上に並ぶとき、
 $\vec{OA} = (1-s)\vec{OP} + s\vec{OQ}$
 とおけるので、
 $\begin{pmatrix} \frac{1-\sqrt{3}}{2} \\ 1+\sqrt{3} \end{pmatrix} = (1-s)\begin{pmatrix} 2\cos t \\ 4\sin t \end{pmatrix} + s\begin{pmatrix} -2\sin t \\ 4\cos t \end{pmatrix}$
 $\Leftrightarrow \begin{cases} 1-\sqrt{3} = 4\cos t - 4s\cos t - 4s\sin t \\ 1+\sqrt{3} = 4\sin t - 4s\sin t + 4s\cos t \end{cases}$
 $\Leftrightarrow k = \frac{4\cos t - 1 + \sqrt{3}}{4(\cos t + \sin t)} = \frac{4\sin t - 1 - \sqrt{3}}{4(\sin t - \cos t)}$
 よって、
 $(4\cos t - 1 + \sqrt{3})(\sin t - \cos t) = (4\sin t - 1 - \sqrt{3})(\cos t + \sin t)$
 $\Leftrightarrow \sin\left(t + \frac{1}{6}\pi\right) = 1$
 $0 \leq t < 2\pi$ より、 $t + \frac{\pi}{6} = \frac{\pi}{2} \Leftrightarrow t = \frac{1}{3}\pi \dots \text{ウ}$

(3) $\Delta PAQ = \frac{1}{2} \left| \begin{pmatrix} 2\cos t - \frac{1-\sqrt{3}}{2} \\ 4\cos t - (1+\sqrt{3}) \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} -2\sin t - (1+\sqrt{3}) \\ -2\sin t - \frac{1-\sqrt{3}}{2} \end{pmatrix} \right|$
 $= 4 - 4\sin\left(t + \frac{1}{6}\pi\right) \dots \text{オ}$
 よって、 $t + \frac{\pi}{6} = \frac{3}{2}\pi$, すなわち $t = \frac{4}{3}\pi$ のとき、最大値 8 である。 $\dots \text{サ}$

問題 [II]
 白玉 6 個と赤玉 3 個がはいっている袋から玉を 1 個取り出す試行を行う。このとき、次の間に答えなさい。

(1) 取り出した球は袋に戻さないと、この試行を 5 回繰り返す。5 回目にはじめて赤玉が取り出される確率は $\frac{\text{ア}}{\text{イウ}}$ である。

(2) 取り出した球は袋に戻さないと、この試行を 5 回繰り返す。このとき、赤玉がちょうど 3 個取り出される確率は $\frac{\text{エ}}{\text{オカ}}$ である。

(3) 取り出した球は袋に戻さないと、この試行を 5 回繰り返す。5 回目に 3 個目の赤玉が取り出される確率は $\frac{\text{キ}}{\text{クケ}}$ である。

(4) 取り出した球を袋に戻すとして、この試行を 5 回繰り返す。このとき、赤玉がちょうど 3 個取り出される確率は $\frac{\text{コサ}}{\text{ンスセ}}$ である。

(5) 取り出した球を袋に戻すとして、この試行を繰り返す。赤玉が取り出されたら試行は止める。 k 回目に赤玉が出て止める確率は $P_k = \frac{\text{ソ}}{\text{タ}} \left(\frac{\text{チ}}{\text{ツ}} \right)^{\text{テ}}$ である。

また $T = 1 \cdot P_1 + 2 \cdot P_2 + \dots + k \cdot P_k = \frac{\text{ト}}{\text{ナ}} - \left(\frac{\text{ニ}}{\text{ヌ}} \right)^{\text{ネ}}$ である。

解説

取り出した球を袋に戻さないと、9 個の球すべてを取り出した状態を考えると、全事象は、6 個の白玉と 3 個の赤玉を並べるので、 $\frac{9!}{6! \cdot 3!} = 84$ 通り。

(1) 前半 5 個の並べ方は $(WWWWR)$ であり、残り 4 個 (W を 2 個, R を 2 個) 並べればよいので、その並べ方が $\frac{4!}{2! \cdot 2!} = 6$ 通り。よって $\frac{6}{84} = \frac{1}{14} \dots \text{ア}$

(2) 前半 5 個に W が 2 個, R が 3 個並び、後半 4 個には $(WWWW)$ と並べばいいので、前半の並べ方を考えればよく、 $\frac{5!}{2! \cdot 3!} = 10$ 通り。よって $\frac{10}{84} = \frac{5}{42} \dots \text{エ}$

(3) 5 回目に 3 個目の赤玉が出るので、前半 4 個は W が 2 個, R が 2 個であり、残り 5 つは $(RWWWW)$ と並び、よってその並べ方は $\frac{4!}{2! \cdot 2!} = 6$ 通り。よって $\frac{6}{84} = \frac{1}{14} \dots \text{キ}$

(4) 反復試行の確率として考えればよく、 ${}^5C_3 \left(\frac{1}{3}\right)^3 \left(\frac{2}{3}\right)^2 = \frac{40}{243} \dots \text{コ}$

(5) $P_k = \left(\frac{2}{3}\right)^{k-1} \cdot \left(\frac{1}{3}\right) = \frac{1}{2} \left(\frac{2}{3}\right)^k \dots \text{サ}$
 また、
 $T = \sum_{m=1}^k m \cdot P_m = \sum_{m=1}^k \frac{m}{2} \left(\frac{2}{3}\right)^m$
 ここで、 $f(m) = -(m+2)\left(\frac{2}{3}\right)^{m-1}$ を利用して、恒等式
 $\frac{m}{2} \left(\frac{2}{3}\right)^m = f(m+1) - f(m)$
 と書けるので、
 $T = \sum_{m=1}^k \{f(m+1) - f(m)\} = f(k+1) - f(1)$
 $= 3 - (3+k)\left(\frac{2}{3}\right)^k \dots \text{ト}$

問題 [III]
 $0 \leq k \leq \frac{\pi}{2}$ として、積分
 $S(k) = \int_0^{\frac{\pi}{2}} (2|\sin x - \sin k| + |\cos x - \cos k|) dx$
 を考える。このとき、次の間に答えなさい。

(1) $S(k) = \frac{\text{アイ}}{\text{ウ}} + \left(\frac{\text{エオ}}{\text{カ}} - \pi \right) \sin k + \left(\frac{\text{ケ}}{\text{コ}} - \frac{\text{キク}}{\text{ク}} \right) \pi \cos k$ である。

(2) $S'(k) = \left(\frac{\text{サシ}}{\text{セ}} - \frac{\text{ス}}{\text{ソ}} \right) \pi (\sin k + \frac{\text{タ}}{\text{チ}} \cos k)$ である。

(3) $S(k)$ は $k = \frac{\text{タ}}{\text{チ}}\pi$ で最小値 $\frac{\text{ツ}}{\text{テ}} \sqrt{\frac{\text{ト}}{\text{ナ}}}$ をとる。

解説

(1) $0 \leq x \leq k$ のとき、 $\sin x \leq \sin k, \cos x \geq \cos k$
 $k \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ のとき、 $\sin x \geq \sin k, \cos x \leq \cos k$
 となるので、
 $f(x) = 2(\sin k - \sin x) + (\cos x - \cos k)$
 $F(x) = 2(\sin k \cdot x + \cos x) + (\sin x - \cos k \cdot x)$
 とおくと、
 $S(k) = \int_0^k f(x) dx + \int_k^{\frac{\pi}{2}} (-f(x)) dx$
 $= [F(x)]_0^k + [-F(x)]_k^{\frac{\pi}{2}}$
 $= 2F(k) - F(0) - F\left(\frac{\pi}{2}\right)$
 $= -3 + (2+4k-\pi)\sin k + \left(4-2k+\frac{1}{2}\pi\right)\cos k \dots \text{アイ}$

(2) $S'(k) = \left(2k - \frac{1}{2}\pi\right)(\sin k + 2\cos k)$

(3) $0 \leq k \leq \frac{\pi}{2}$ となるので、 $\sin k + 2\cos k > 0$ であり、 $S'(k) = 0$ のとき $k = \frac{\pi}{4}$
 また、増減を調べると、このときに最小値をとり、
 $S\left(\frac{\pi}{4}\right) = 3\sqrt{2} - 3 \dots \text{ウ}$

【講評】

- ① (1) は素直に計算するだけである。(2)(3) はベクトルを用いて解くとよいだろう。
- ② (1)~(3) は、全ての球を取り出して一列に並べると考えると明快。(4) は反復試行の確率計算である。(5) は等差と等比の混合数列だから、差を取って計算すればよい。
- ③ (1) は、絶対値の中身の正負で場合分けして計算するだけである。(2) は、(1) で得られた関数を微分するだけであり、(3) は、(2) で得られた結果をもとに増減を考えて最小値を求めるだけである。
- 総じて易しい。素直に計算するだけの問題を主として構成されている。ただし、計算の煩雑な問題が数問あり、それらを考慮すると、合格ラインは 65~70% 程度だと思われる。

YMS 勝利への大逆転講座
 医大別直前講習会 二次試験対策講座
 ・昭和Ⅱ 2/21⑩~3/3⑩ ・東北医科薬科 2/9⑩
 ・埼玉(後) 2/7⑩~2/13⑩
 ・藤田(後) 2/24⑩~3/3⑩ **申し込み受付中!**

詳細はホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。
 TEL **03-3370-0410**
YMS www.yms.ne.jp
 東京都渋谷区代々木1-37-14